

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
「生活行為障害の分析に基づく認知症リハビリテーションの標準化に関する研究」
分担研究報告書

軽度要介護状態にある在宅認知症高齢者の ADL / IADL の低下の特徴
—認知症群内での前後比較、非認知症群との群間比較より—

分担研究者 川越雅弘
国立社会保障・人口問題研究所 部長
協力研究者 菊池 潤
国立社会保障・人口問題研究所 室長

研究要旨：

目的：在宅で療養している認知症群（認知症高齢者の日常生活自立度（以下、認知症自立度）がランク 以上）と非認知症群（同自立度が自立又はランク ）の ADL / IADL の低下の状況の差異を明らかにする。

対象：A 市からご提供頂いた2013年9月及び2015年9月の2時点の認定・給付データをもとに、以下の4条件（2013年9月時点で65歳以上、両時点とも在宅療養中、2013年9月時点で要介護1、両時点とも認定・給付データが存在）の条件を満たした2,998人を分析対象とした。

方法：対象者を、認知症自立度をもとに認知症群と非認知症群に分類した上で、認知症群における項目別自立者割合の差異及びの2群間比較（2013年時点）、認知症群における項目別自立者割合の2年後の減少量の差異及び2群間比較を実施した。

結果：本研究により、

- 1) 要介護1の認知症高齢者では、「薬の内服」「買い物」「金銭管理」の自立者割合が2割未満と低いのに対し、「食事摂取」「移乗」「洗顔」「整髪」「排便」「口腔清潔」の自立者割合は9割以上と高かった。
- 2) 2013年9月の自立者割合を2群間で比較すると、認知症群では、「薬の内服」「金銭管理」で20ポイント以上低い一方で、「歩行」「爪切り」「洗身」「外出頻度」で10ポイント以上高かった。
- 3) 認知症群において、2時点間の自立者割合を項目別に比較すると、「口腔清潔」「ズボン等の着脱」「上衣の着脱」「排尿」「洗身」「排便」で20ポイント以上減少していた。
- 4) 2時点間の自立者割合の減少量を2群間で比較すると、「洗身」「爪切り」で10ポイント以上、認知症群の自立者割合の低下量が多かった。
などがわかった。

まとめ：認知症高齢者の ADL / IADL の低下の特徴を踏まえた上で、これら活動を高めるためのリハビリテーションの方法論を展開する必要がある。

A. 研究目的

在宅で療養している認知症群（認知症自立度がランク 以上）と非認知症群（同自立度が自立またはランク ）の ADL / IADL の自立度の低下の状況の差異を明らかにすること。

B. 研究方法

【対象・方法】

A 市からご提供頂いた2013年9月及び2015年9月の2時点の認定・給付データをもとに、

2013年9月時点で65歳以上である

両時点とも在宅療養中である

2013年9月時点で要介護1である

両時点とも認定・給付データが存在する

の条件を満たした2,998人を抽出、認知症自立度をもとに認知症群と非認知症群に分類した上で、2年

後の ADL / IADL の自立度の低下率を項目別に2群間比較した。なお、比較に用いた ADL / IADL 項目とは、認定調査項目の中の、「歩行」「洗身」「爪切り」「移乗」「移動」「嚥下」「食事摂取」「排尿」「排便」「口腔清潔」「洗顔」「整髪」「上衣の着脱」「ズボン等の着脱」「外出頻度」「薬の内服」「金銭の管理」「買い物」「簡単な調理」の19項目である。

（倫理面への配慮）

A 市との間で、データの取扱い等に関する覚え書きを締結した上で、分析を実施している。また、国立社会保障・人口問題研究所の研究倫理審査会にて承認も受けている（番号：IPSS - TRN#15001-2）。

C. 研究結果

1. 性別にみた人数 / 割合及び平均年齢

認知症群は2,202人で、うち男性は597人(27.1%)、平均年齢は82.5歳、一方、非認知症群は796人で、うち男性は247人(31.0%)、平均年齢は82.5歳であった。認知症群の方が、女性の割合が高かった(表1)。

2. 項目別にみた自立者割合の差異(2013年時点、認知症群)

2013年9月の認知症群の自立者割合を項目別にみると、「食事摂取」98.0%、「移乗」97.6%、「洗顔」「整髪」93.9%、「排便」92.0%、「口腔清潔」90.0%の自立度が高い一方で、「薬の内服」9.9%、「買い物」10.7%、「金銭管理」15.8%、「簡単な調理」25.6%の自立度が低い状況であった(表2)。

3. 項目別にみた自立者割合の2群間比較(2013年時点)

2013年9月の自立者割合を2群間で比較すると、「薬の内服」24.4ポイント(認知症群9.9%、非認知症群34.3%)、「金銭管理」21.8ポイント(15.8% vs 37.7%)、「簡単な調理」2.3ポイント(25.6% vs 27.9%)で認知症群の方が低かった。一方、「歩行」28.6ポイント(認知症群48.2%、非認知症群19.6%)、「爪切り」18.2ポイント(52.0% vs 33.8%)、「洗身」17.0ポイント(55.8% vs 38.8%)、「外出頻度」13.4ポイント(78.7% vs 65.3%)で非認知症群の方が低かった(表2)。

4. 項目別にみた自立者割合の変化(認知症群)

2時点間の自立者割合の変化量をみると、全ての項目で減少していた。

ここで、2時点間の減少量を項目別にみると、「口腔清潔」29.0ポイント(90.0% → 61.0%)、「ズボン等の着脱」28.2ポイント(83.1% → 54.9%)、「上衣の着脱」26.8ポイント(81.1% → 54.3%)、「排尿」26.7ポイント(85.7% → 59.0%)、「洗身」26.6ポイント(55.8% → 29.2%)、「排便」26.1ポイント(92.0% → 65.9%)で高かった。一方、「薬の内服」4.0ポイント(9.9% → 5.9%)、「嚥下」4.8ポイント(86.1% → 81.4%)、「買い物」5.7ポイント(10.7% → 5.0%)、「金銭管理」6.5ポイント(15.8% → 9.4%)の減少量が低かった(表2、図1)。

5. 項目別にみた自立者割合の減少量の2群間比較

2時点間の自立者割合の減少量を2群間で比較すると、19項目中15項目で認知症群の自立者割合の低下量が多かった。

これを項目別にみると、「洗身」14.7ポイント(認知症群26.6ポイント、非認知症群11.9ポイント)、「爪切り」12.6ポイント(24.6ポイント vs 12.1ポイント)、「洗

顔」9.6ポイント(23.4ポイント vs 13.8ポイント)、「整髪」9.2ポイント(23.0ポイント vs 13.8ポイント)、「口腔清潔」8.1ポイント(29.0ポイント vs 20.9ポイント)、「ズボン等の着脱」7.8ポイント(28.2ポイント vs 20.4ポイント)、「歩行」7.0ポイント(10.5ポイント vs 3.5ポイント)で、認知症群の自立者割合の低下量が多かった。一方、「薬の内服」11.9ポイント(認知症群4.0ポイント、非認知症群16.0ポイント)、「金銭管理」7.3ポイント(6.5ポイント vs 13.8ポイント)、「嚥下」3.5ポイント(4.8ポイント vs 8.3ポイント)で、非認知症群の自立者割合の低下量が多かった(表2、図2)。

D. 考察・E. 結論

本研究により、

1. 要介護1の認知症高齢者では、「薬の内服」「買い物」「金銭管理」の自立者割合が2割未満と低いのにに対し、「食事摂取」「移乗」「洗顔」「整髪」「排便」「口腔清潔」の自立者割合は9割以上と高かった。
2. 2013年9月の自立者割合を2群間で比較すると、認知症群では、「薬の内服」「金銭管理」で20ポイント以上低い一方で、「歩行」「爪切り」「洗身」「外出頻度」で10ポイント以上高かった。
3. 認知症群において、2時点間の自立者割合を項目別に比較すると、「口腔清潔」「ズボン等の着脱」「上衣の着脱」「排尿」「洗身」「排便」で20ポイント以上減少していた。
4. 2時点間の自立者割合の減少量を2群間で比較すると、「洗身」「爪切り」で10ポイント以上、認知症群の自立者割合の低下量が多かった。などがわかった。

認知症高齢者のADL / IADLの低下の特徴を踏まえた上で、これら活動を高めるためのリハビリテーションの方法論を展開する必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1. 性・年齢階級別にみた対象者数

	度数			相対度数		
	非認知症群	認知症群	計	非認知症群	認知症群	計
総数	796	2,202	2,998	100.0%	100.0%	100.0%
性別						
男性	247	597	844	31.0%	27.1%	28.2%
女性	549	1,605	2,154	69.0%	72.9%	71.8%
年齢階級別						
65-69歳	46	86	132	5.8%	3.9%	4.4%
70-74歳	72	207	279	9.0%	9.4%	9.3%
75-79歳	146	369	515	18.3%	16.8%	17.2%
80-84歳	203	637	840	25.5%	28.9%	28.0%
85-89歳	185	569	754	23.2%	25.8%	25.2%
90-94歳	118	287	405	14.8%	13.0%	13.5%
95歳以上	26	47	73	3.3%	2.1%	2.4%

表2. ADL / IADL 項目別にみた2時点の自立者割合とその減少量及び順位

	自立者の割合 (2013)		自立者の割合 (2015)		自立者割合の 減少量(ポイント)		減少量の 順位	
	非認知症群	認知症群	非認知症群	認知症群	非認知症群	認知症群	非認知症群	認知症群
1-7: 歩行	19.6%	48.2%	16.1%	37.6%	3.5	10.5	18	13
1-10: 洗身	38.8%	55.8%	26.9%	29.2%	11.9	26.6	13	5
1-11: 爪切り	33.8%	52.0%	21.7%	27.3%	12.1	24.6	12	7
2-1: 移乗	93.1%	97.6%	79.3%	83.9%	13.8	13.7	10	11
2-2: 移動	80.3%	86.1%	60.7%	64.6%	19.6	21.5	6	10
2-3: 嚙下	80.9%	86.1%	72.6%	81.4%	8.3	4.8	15	18
2-4: 食事摂取	98.0%	98.0%	88.6%	86.7%	9.4	11.3	14	12
2-5: 排尿	84.9%	85.7%	62.8%	59.0%	22.1	26.7	2	4
2-6: 排便	90.7%	92.0%	67.5%	65.9%	23.2	26.1	1	6
2-7: 口腔清潔	90.5%	90.0%	69.6%	61.0%	20.9	29.0	4	1
2-8: 洗顔	89.3%	93.9%	75.5%	70.5%	13.8	23.4	8	8
2-9: 整髪	92.2%	93.9%	78.4%	70.9%	13.8	23.0	8	9
2-10: 上衣の着脱	76.5%	81.1%	55.3%	54.3%	21.2	26.8	3	3
2-11: ズボン等着脱	76.8%	83.1%	56.4%	54.9%	20.4	28.2	5	2
2-12: 外出頻度	65.3%	78.7%	64.6%	72.2%	0.8	6.6	19	15
5-1: 薬の内服	34.3%	9.9%	18.3%	5.9%	16.0	4.0	7	19
5-2: 金銭の管理	37.7%	15.8%	23.9%	9.4%	13.8	6.5	10	16
5-5: 買い物	9.9%	10.7%	5.5%	5.0%	4.4	5.7	17	17
5-6: 簡単な調理	27.9%	25.6%	21.2%	17.3%	6.7	8.2	16	14

図1. 認知症群における ADL / IADL 項目別にみた自立者割合の変化

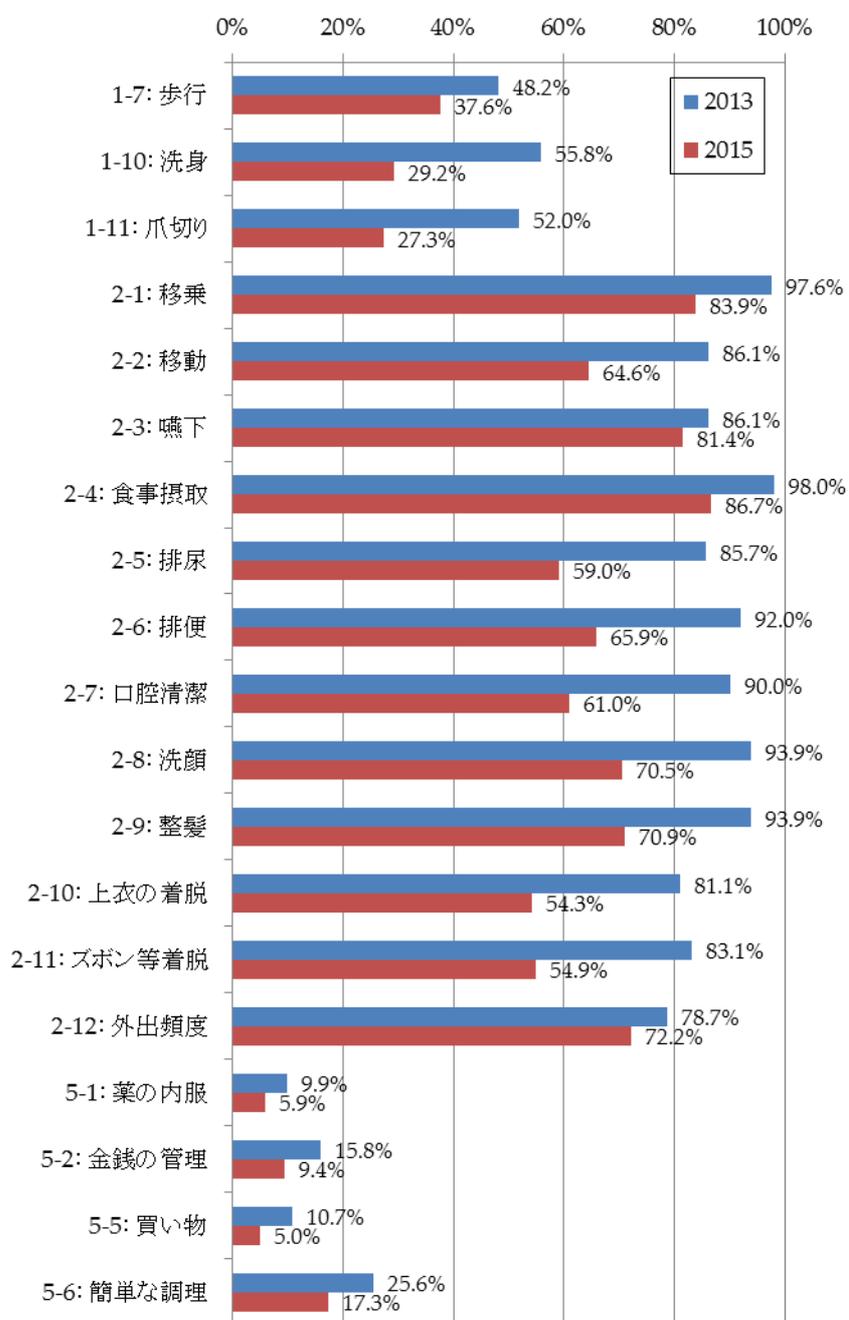


図2. 認知症 / 非認知症群別にみた ADL / IADL 項目別自立者割合の減少量

